

2022年度の岡山中央福祉会事業活動の振り返り

社会福祉法人 岡山中央福祉会

はじめに

2022年度は1年間新型コロナ感染拡大に翻弄された1年間でした。7月から始まった感染拡大第7波は8月にピークを迎え全国で1日の新規感染者数は25万人を超えました。9月には穂香の里小規模多機能事業所に始まり法人内でクラスターが多発するなど職員・利用者で200人を超える感染者を数えました。さらに年末から始まった第8波は高齢者を中心に死亡者数が急増し7万人を超える死者数となりました。政府のコロナ対策はワクチン接種のみで第8波における介護事業所のクラスター多発、医療機関特に救急医療が崩壊しました。にもかかわらず、5月には新型コロナウイルスを感染症分類の2類から5類に見直すことを決定したことは大きな問題です。

2022年2月ロシアのウクライナ侵攻から1年が経過した。ウクライナ国民8千人が犠牲となり、600万人が国外に避難した。両軍の死傷者は20万人に達し、戦闘の長期化と人権侵害懸念されている。ウクライナ侵攻は、二国間の紛争のみならずロシアに対する経済制裁による西側と中国・ロシア等の反米勢力との対立を激化させた。日本においても世界的なエネルギー価格の高騰、円安によって電気料金・ガソリン・ガス等の価格上昇は家計・事業所経営を直撃した。政府が進めようとしている敵基地攻撃能力保有と大軍拡政策は、社会保障制度や国民生活を破壊するものでありその危険性を広く知らせることが重要です。

I 2022年度法人事業計画の5つの視点

1 コロナの時代に岡山中央福祉会事業所が目指す新しい福祉・介護の視点

(1) 法人の基本姿勢

- ①入所者・利用者・職員とその家族、友の会会員、地域住民の命と安全を最優先します。
- ②感染拡大防止のガイドラインに基づき感染予防と感染防止対策に取り組みます。利用者や利用者家族の協力も得ます。
- ③事業の継続で利用者の健康とくらしを守ります。一人ひとりの困りごとに寄り添う支援に取り組みます。
- ④職員の雇用と生活を守ります。
- ⑤行政や他団体・事業所・岡山中央福祉会友の会と連携しコロナによって自宅に取り残された高齢者を支援し地域を支える活動に貢献します。
- ⑥困難が増す社会状況の中で改めて私たちの岡山中央福祉会21世紀理念を大切に、職員一人ひとりが行動します。

(2) 法人・事業所の目標

- ① 新型コロナの感染を最小限に抑えるために科学的な視点にたった感染防止の取り組み
- ② コロナ不安で委縮しがちな環境の中入居者・利用者潤いのある豊かな生活を創造します（食事・行事・イベント・レクリエーション・クラブ活動・外出・買い物・コミュニケーション・家族や地域住民との交流など）
- ③ 面会や外出などを通して入居者の思いを尊重した家族との関係づくりと在宅サービス利用者が地域で安心して生活ができるようサービスの充実と家族との連携を強めます
- ④ コロナによって希薄になった事業所と人、人と人とのつながりや絆を取り戻す新しい友の会活動や地域福祉活動の具体化

2 不安と閉塞したくらしの中で仕事にやりがいを見出すことができる「学び」と「職場づくり」の視点

3 コロナの時代だからこそ必要な社会保障制度の充実と平和を守る活動と共に地球温暖化が危惧される中で身近な環境改善への取り組みの視点

4 介護事業者の倒産・休止が過去最多となる環境の中でコロナに負けない、地域から圧倒的

に選ばれる事業所づくりと職員が主人公の事業所経営実現の視点

5 2030年の日本の姿・地域の姿を予測し地域のニーズに応えることのできる法人・事業所づくりの視点

II 5つの視点に基づく法人・事業所の取り組み

1 コロナの時代に岡山中央福祉会事業所が目指すもの

(1) 新型コロナウイルスの感染を最小限に抑えるために科学的な視点にたった感染防止の取り組み

① 第7波、第8波期間中多くの事業所でクラスターが発生し感染対策に追われた1年でした。

表 第8波における各事業所感染拡大状況

第8波(2022年12月1日～2023年2月10日)におけるコロナ感染拡大の事業所単位の集計

発生開始日	事業所名	利用者	職員	家族	クラスター発生等特徴点
12月1日	特養中野けんせいえん	5	15	7	12/1発生の3階東南ユニットはご入居者2名、職員2名が感染。12/6発生の4階北西ユニットはご入居者2名が感染。
12月1日	デイサービスセンターひなた	2	2	7	それぞれ別の感染ルートで同時期での発生ではない
1月16日	健生園デイサービス	8	6	1	12月は職員1名、職員家族1名 1月は職員6名、利用者8名 感染経路は一つではなく、日々1名ずつ発症し1月31日時点でクラスター扱いとなる
12/1～2/10	健生園居宅介護支援事業所	28	2	2	ショートステイ利用先(他法人)でのクラスター発生あり
1/6～	ケアハウスあかね	3	1	1	1/6 協立病院退院PCR抗原検査陰性だったが、翌日抗原検査陽性
	ヘルパーステーションあかね	9	4	2	断続的に発生
12月9日	さくら苑リハビリセンター	3	2	1	
12月20日	さくら苑通所リハビリ	3	2	8	利用者家族から利用者感染が特徴
1月7日	さくら苑デイつくしんぼ	4	1	3	
12月17日	養護老人ホーム岡山市会陽の里	1	3	11	職員家庭内感染、それぞれ別の感染経路、クラスター無 入所者は入院中で院内感染(感染後永眠)
12月5日	会陽の里デイ	3	2	2	利用者2名家族感染、職員全て家庭内感染、クラスター無
1月26日	さっちゃん家グループホーム		1	4	
1月14日～	さっちゃん家デイサービス	8	4	1	クラスター
12/15・1/24	シルバーライフかなおか	0	2	3	職員2名が家庭内感染
1/14・1/4・1/	デイサービスセンターかなおか	6	1	1	12月利用者1名、1月4日は職員家族1名 1/24より職員1名利用者5名が感染、感染経路は不明
12月7日	特養穂香の里			6	6人家族、職員は罹患せず
1月3日	小規模穂香の里			1	職員夫妻罹患
1月4日	穂香の里居宅介護支援事業所		1		抗原検査定期検査で陽性
	合計	83	49	61	

② PCR・抗原検査の定期実施を行政へ要望し、一部市内での無料検査も実施されましたがPCR検査については、費用負担・検査体制に課題が残りました。

(2) コロナ不安で萎縮しがちな環境の中入居者・利用者に潤いのある豊かな生活を創造します(食事・行事・イベント・レクリエーション・クラブ活動・外出・買い物・コミュニケーション・家族や地域住民との交流など)

① 拠点単位での行事・イベントは今年度も開催することができませんでした。しかし、映像を最大限活用したイベント(沖縄フェア等)をあかねや健生園デイなどの事業所で開催しました。

② ボランティアの受け入れなど、外部からの受入はほぼできませんでした。実習生・見学者の受入は行いました。

(3) 入居者の思いを尊重した家族との関係づくりをいかに支援し、在宅サービス利用者が地域で安心して生活ができるよう家族・地域住民との共同

① 家族面会は、第7波期間を中心に1年を通して制限せざるを得ない状況でした。入所施設では面会制限によって認知症の進行など入居者への心身の影響がありました。また、通所事業所でのクラスター発生によって利用できない陽性利用者が自宅で急死するケースや状態の悪化で利用継続できないケースがあり

ました。訪問介護は原則、コロナ陽性者・家族の感染時は訪問不可として対応しました。職員と他の利用者への感染を防ぐためにはやむを得ない措置でしたが、今後陽性となったとしてもサービスを届けることのできる感染対策や対応が求められます。しかし、訪問介護事業所のみでの力では到底実現不可能であり法人及び行政も含めた制度対応が必要です。

② 利用控えによって自宅で孤立している利用者への支援（一部配食など実施しています）の仕組みが必要です。また、安心して利用していただけるよう家族への情報提供が必要であると同時に介護保険制度の柔軟な対応が求められます。

（４） コロナによって希薄になった事業所と人、人と人とのつながりや絆を取り戻す新しい友の会活動や地域福祉活動の具体化

① 10月～12月の収束期では新型コロナの感染状況に留意しながら班会・ブロック会議・行事を一部再開しました。

② 友の会ニュースと法人報の合併、定期発行について

21年度法人機関紙「みんなのひろば」を発刊し法人機関紙編集委員会が中心となりこれまで7号発行することができました。「健康園ひろば」との合併によって年に3回町内会ルートを通じて9千部を地域住民に届けることができたことは大いに評価されます。

2 不安と閉塞した日常の暮らしの中で仕事にやりがいを見出すことができる「学び」と「人材育成・職場づくり」の視点

（１） 誰もが働きやすい職場づくりでケアの質の向上を

表1 職員の採用・退職状況

	採用	退職
正職員	9名（前年比 ▲13名）	18名（前年比13名）
契約職員	22名（前年比 ▲7名）	29名（前年比4名）

今年度は、正職員・契約職員とも採用数が減少した。一方、退職者は正職員で13名、契約職員で4名前年に比べて増加した。契約職員の採用の内5名が一度退職経験後再雇用者である。

正職員は退職18名に対して採用は9名にとどまり、法人全体の人材不足が顕在化した。特に介護職の退職はコロナの影響によるもので、長期間の行動制限から解放されることを望み他業種への転職が若い世代の退職傾向となった。退職では年齢による退職が契約職員を中心に増加しているのも特徴と言える。

法人・事業所は人材確保のために様々な工夫をしており今後全職員が進める人材確保に取り組みます。

① キャリアパスと職員個別評価を組み合わせた新しい賃金体系の構築について検討しました。

② 「職員なんでも相談」や育成面談で職員の思いを一定受け止めることができた。

③ コロナをふまえて予防対策を図りながら対面とウェブによる職場会議・学習会・研修会など実施できたが職員間、事業所間の交流は大幅に減少した。

（３） ノーリフティングケアの導入

ノーリフティングケアとは、介護する側とされる側双方において安全で安心な、持ち上げない・抱え上げない・引きずらないケアを言います。今年度、十分な実践とはなりませんでした。法人介護部会で学習会の企画がスタートしました。今後モデル施設を指定し実践をめざします。

（４） 民医連等他団体の研修会に積極的に参加し全国の仲間と連携します

① コロナの時代だからこそ民医連の方針を学び、社会保障制度のあり方について考える取り組みは、コロナの影響もあり十分できたとは言えませんが、県連理事3名を刷新し新たな活動が進んでいます。また、全日本民医連評議員を役員として選出しました。

② 全国ジャンボリー実行委員会に委員を派遣しました。24年度開催の全国共同組織交流集会への実

行委員会を2名選出しました。

(5) 厚労省が提唱する「科学的介護」を検証し真に高齢者本位のケア実践を追求します

① 2021年介護報酬改定案において提唱されている「科学的介護」について(総称してLIFEと言う)前提となるケアシステムの統一化をさくら苑拠点で導入しました。

3 コロナの時代だからこそ必要な社会保障制度の充実と平和を守る活動と共に地球温暖化が危惧される中で身近な環境改善への取り組みの視点

(1) 無差別・平等の医療介護の理念実践

① 社会福祉法人減免制度及び独自の減免制度の実行

中野けんせいえんで常時10名前後の社会福祉法人減免を実施し、独自減免としてシルバーライフかなおかでの生保世帯への利用料減免を3名受け入れました。

② 様々な理由で必要な介護サービスを受けることのできない高齢者への支援として、クラスター発生時の家族の希望によってサービスが必要な陽性利用者の受入体制の整備が必要です。

③ 養護老人ホーム岡山市会陽の里では、近年ホームレスや触法精神障がい者の受け入れが増加しています。他の養護老人ホームで受け入れ困難なケースの依頼もあるなど会陽の里しかできない支援に取り組んでいます。一方で現場の負担は大きく、職員の負担軽減が課題です。

4 介護事業者の倒産・休止が過去最多となる環境の中でコロナに負けない、地域から圧倒的に選ばれる事業所づくりと職員が主人公の事業所経営実現の視点

(1) 部門別・ユニット別管理会計の取り組みは十分に進めることはできませんでしたが、職場会議等での経営報告・交流など全職員が関わる経営は定着しつつあります。

(2) 消耗品・備品・食材・エネルギー部門の共同購入をすすめましたが、年末からの電気料金の高騰は事業所経営を破壊しかねない状況となっています。7月～9月省エネ・省資源月間に取り組み職員からアイデア募集を行いました。物価高騰下で各事業所での取り組みが期待されます。

(3) 事業所が選ばれるために広範囲の地域住民へ正しい情報提供をすすめます

① ホームページのリニューアルで「見てみたい」「使ってみたい」と思えるHPづくりを全事業所で行いブログ等の更新も行われ好評です。

5 2030年の日本の姿・地域の姿を予測し地域のニーズに応えることのできる法人・事業所づくりの視点

(1) 2030年を見通した中・長期計画策定準備をすすめました。中長期計画を作成するにあたり少なくとも拠点事業所が位置する中学校区程度の高齢化など地域分析が必要です。

(2) 地域のニーズに応える新たな事業展開

① 旧健生園施設は、老朽化によって浄化槽、配管設備・エレベーターなど修繕を行いました。現在、岡山市東区防災グッズの保管場所として活用、2階居室を臨時避難場所として防災備品の整備と清掃を行いました。

② 穂香の里小規模多機能事業所のサテライト事業所づくりについて検討がスタートしました。